

令和3年度第1回

幸手市総合教育会議議事録

招 集 期 日	令和3年11月9日(火) 午前9時00分					
開 会 場 所	幸手市役所第二庁舎 2階 第1会議室A					
開 会 の 日 時	令和3年11月9日(火) 午前9時00分					
閉 会 の 日 時	令和3年11月9日(火) 午前10時15分					
出席 状 況	職 名	氏 名	摘 要	職 名	氏 名	摘 要
	市 長	木村 純夫	出席	教育委員	高島 勝也	出席
	教 育 長	山西 実	出席	教育委員	藤沼 寛次	出席
	職務代理者	会田 研司	出席	教育委員	古沢 万友実	出席
	教育委員	岩崎 万紀子	出席			
傍聴人：0人				書記：大竹 孝典・河口 奈緒		
議 事 参 与 者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教 育 部 長	木村卓朗				
	政 策 課 長	安部貴昭				
	総 務 課 長	服部道春				
	学校教育課長	堀越成夫				
	社会教育課長	百瀬 修				
	政策課主席主幹	松本直樹				

議 事	顛 末
<p>開 会 午前 9 時 00 分</p> <p>あいさつ</p> <p>日程第 1 協議調整事項 及び報告事項 協議調整事項第 1 号 幸手市の教育行政の諸課題</p>	<p>教育部長 開会を宣する。</p> <p>市長 あいさつする。</p> <p>教育部長 市長から本市の教育行政に対する所感と現状の諸課題を述べていただき、その後、委員の皆様から御意見やお考えを伺いたい。</p> <p>市長 近年、「SDGs」や「Society5.0」という言葉をよく耳にするが、いずれも AI 等の先端技術を高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れることで、人々の生活を豊かにするとともに、環境や人権、福祉や健康などの地球規模的な課題を解決し、希望のもてる未来社会を標榜していこうとする表れではないかと認識している。</p> <p>このことは多くの国民の課題であるとともに、未来を担う子どもたちが健やかに成長し、世界中どこでも飛躍できる人材になるための必要な資質・能力であるにとらえており、小・中学校においてはそのための基礎教育の推進が重要である。そのためには、数値に表れるテストの結果だけではなく、子どもたちが変化の激しい社会で活躍できる資質や能力をバランスよく育むことが大切であると考えている。子どもたちは地域の宝であり、いきいきと子どもが輝く教育・子育て支援のまちを作ってまいりたい。</p> <p>特に、学校の教育整備は重要であり、本年 8 月 20 日付けで、教育長宛てに「市内小中学校の今後の在り方の検討について」を依頼したところである。</p> <p>また、「人生百年時代の健康・スポーツ・文化活動の推進」も私の公約の一つであり、人生百年時代を生きる市民のライフステージに応じた豊かな学びや健康づくりは、これからの社会を彩り豊かに元気よく、充実した人生を送るために不可欠な要素となると思う。その活動の拠点となる公共施設の充実や各種団体の育成支援なども重要</p>

な課題ではないかと考えている。

このように近未来を生きていく市民にとって教育の果たす役割は極めて重要であり、その範疇は大変幅広く深いものがある。

喫緊の課題としては、まず、学校教育の側面では、

- ・吉田幼稚園廃園に伴う跡地の利活用の問題
- ・公教育の幼児教育や幼小一貫教育
- ・少子化に伴う学校の適正配置と未来を見据えた学校の在り方
- ・未来に生きて働く基礎・基本となる確かな学力の育成方策
- ・GIGAスクールの一層の推進

など解決しなければならない問題や課題があげられる。

また、社会教育や生涯学習の側面では、

- ・コロナ禍における社会教育施設の運営
- ・少子化や高齢化に伴う各種団体の育成の在り方
- ・時代に即応した公民館活動や社会教育施設の在り方

などがあげられる。

今後の幸手市の教育行政の一層の充実を目指して、本日は委員の皆様の豊かな識見に基づき、忌憚のない御意見をいただき、今後の市政運営に生かしてまいりたい。

《意見交換》

藤沼委員

年々、全国的に少子化が進むなか、特別な支援を必要とする子どもの数は、増加傾向にある。そこで、GIGAスクール構想で整備されたタブレット端末は、特別支援学級の児童・生徒にも行き渡り、利活用されているのか伺う。

学校教育課長

タブレット端末は、特別支援学級を含めて全ての児童・生徒に行き渡っており、利活用もされている状況である。

岩崎委員

市長から喫緊の課題の一つとして、「少子化に伴う学校の適正配置と未来を見据えた学校の在り方」との話があったが、この課題に取り組むにあたっては、子どもたちが幸手で学びたいと思うような事業を示しながら、学校の適正配置を並行して検討すると、市民の方も納得されると思う。

人口減少が進むなか、教育にお金をかけることこそ、未来に対しての投資かと思うので、是非、幸手市としての独自カラーを示した事業を検討していただきたい。

なお、他の自治体が、独自カラーを出すことで人口が増加に転じているという参考の新聞記事をいくつかお持ちしたので、後ほどご覧いただきたい。

市長

人口減少は、日本全体の問題だが、幸手市は東部地区管内でも特に人口減少率が高い状況である。

私は、市長に就任した2年前から幸手市の全事業の総見直しを実施し、事業の底上げを行っているところである。また、見直した結果を踏まえて一つ一つの事業を丁寧に実施していくことが大事だと考えている。

しかし、見直しても特徴が無く、目立たない政策ではよろしくないと思えるので、岩崎委員がおっしゃるとおり、現状の問題や課題を踏まえた上で、幸手市のカラーをどう出していく、人口減少に歯止めをかけるかという検討が必要になると思う。

人口減少の見込みについては、政策課長から補足をお願いする。

政策課長

幸手市では、今年の7月1日現在の人口が、市制を施行してから以降、初めて50,000人を割り込んだ状況であり、市としてもこのことを重く受け止め、今後、様々な対策を取っていかねばならないと考えている。

市では平成31年3月に策定し、令和元年度を初年度とした「第6次幸手市総合振興計画 基本構想・前期基本計画」に基づき各施策を遂行するとともに、令和3年3月に策定した「第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき各施策を遂行しているところである。

総合戦略はまさに移住・定住に重点を置いた計画であり、市ではこの総合戦略に基づいて総合的に移住・定住を進めてまいりたいと考えている。

ちなみに、総合振興計画では令和10年度の市の人口目標を47,000人と掲げている。少子・高齢化は現代日本の抱える構造的な問題としてあるわけだが、目標に甘えることなく50,000人以上の人口を維持できるよう努力していくので、引き続き皆様の御協力をお願いしたい。

古沢委員

幸手市では、子どもたちの不登校やいじめ対策としてスクールカウンセラーを配置するなど様々な取組がなされており、子どもたちを安心して学校に任せられると思っている。しかし、コロナ禍による不安や社会情勢の変化等により、自ら命を絶ってしまう子どもが増えてきている現状もある。

子どもたちが様々な困難を、生きる力を持って、自ら乗り越えていけるような強い心づくりが大事だと思うので、今後もそのような取組が増えるようお願いしたい。

学校教育課長

古沢委員からお話をいただいたとおり、教育委員会としても生きる力を育むことは重要だと捉えており、幸手市では平成27年度から豊かな心の育成ということで、文部科学省からの委託事業等を受けたり、市独自の副読本を作成したりするなど、道徳教育に力を入れている。

また、10月22日に幸手中学校で実施された「第50回関東甲信越中学校道徳教育研究大会 埼玉大会」及び「第60回埼玉県道徳教育研究大会 幸手大会」のように1校に絞って研究発表等を実施する事業も行っている。

さらに道徳教育推進協議会等を立ち上げて、市全体で子どもたちの育成に取り組んでいる。

今後も継続して取り組んでまいりたい。

高島委員

8月の教育委員会定例会でも話したが、とある番組で、コロナ禍におけるライフスタイルの変化に伴い郊外や地方へ移住する動きに注目が集まっており、そうした中で、中古戸建閲覧数のランキングに幸手市が入っていた話をした。また、こうして幸手市が注目を集めるなかで今後、環境整備と教育行政を両輪で一体的に進めていく必要があるとの話もさせていただいた。

環境整備では、幸手駅西口地区土地区画整理事業によって西側地区住民の利便性が高くなったが、市内の道路が細くて観光バスも通れない道路もあるので、道路行政も大切だと思う。

また、教育行政では様々な取組があると思うが、最終的には授業の充実が大事だと思う。現在放映されている中学受験を題材にしたドラマの中で、主人公が教育の本質

について、やり方を教えるのではなく、楽しさを教えることが大事だということを伝えているシーンがあったが、基本的には教員が分かることの楽しさを教える授業を展開する中で、GIGAスクール構想や道徳教育などを推進していくことが、教育の充実に繋がっていくと思う。

そこで注意したいのは、先程、岩崎委員からお示しいただいた新聞記事はデータの一つであり、その根拠は何なのかを見極めることが大事である。

記事では、様々な独自の教育施策が人口増加の要因の一つになっていると書かれているが、この自治体の一例には、鉄道が開通して駅ができたことで人口が増加に転じた自治体も含まれていた。

日本全体の人口が減少傾向にあるなかで、民間の動きをしっかりと把握しながら、行政として何ができるのか見極めることも非常に重要だと思うので、その辺も留意しながら環境整備と教育行政を一体的に進めていただきたい。

市長

近隣市町の首長とも人口の取り合いは良くないとの話が出る。人口の取り合いの短絡的なやり方としては、財政がひっ迫する中で、何かの費用を無償化したり補償したりする取組を行うことで、一時的には人口が増えたとしても、結果的には行政が疲弊し人口減少に追い打ちをかけることになると思う。

人口減少に歯止めをかけるには、幸手市の過去の実績、や現状、課題をしっかりと捉え、PDCAのサイクルを的確に回していくことが大事だと考えている。

ただし、350人足らずの職員だけで幸手市を更に発展させていくことは難しい部分もあるので、行政の動向をタイムリーに、より正確に市民にお知らせしながら、市民と一緒に考えていく体制を構築していきたい。

会田職務代理者

日頃、市長には教育行政に援助いただくとともに、先日の震度5弱の地震があった際にも吉田地区まで自転車で現地を見に来ていただくなど、精力的に活動いただき感謝申し上げます。

高島委員の御意見とかぶる部分があるが、私は安全な通学路の確保について意見を述べたい。

今年度、千葉県八街市で下校途中の児童が死傷する痛ましい事故があったが、通学路の安全対策を考えたとき、幸手市の主たる道路の歩道の設置率が低いと感じている。例えば、幸手中学校や幸手桜高等学校へ続く通学路は、歩道は設置されているものの大変狭く、改善されていない。また、圏央道幸手インターチェンジが開通したことで、圏央道を降りたトラックが4号バイパスに流れるようになったが、そこへ通じる道路が1本しかないため、吉田小学校の児童が渡る横断歩道に影響が出ている状況がある。

いずれにしても今後の児童・生徒数の推移だけで考えると、小学校4校、中学校1～2校で十分足りる状況になるかと思う。そうした時に、安全な通学路を確保していくことも必要な課題の一つだと思うので、長いスパンで道路行政にも取り組んでいかなければならないかと思う。

市長

私は自転車に乗るのが好きで、市内を走ることがあるが、荒宿の交差点から幸手桜高入口の交差点までの大正新道は交通量が多く、また歩道の縁石が自転車のペダルに当たりそうで危険だと感じている。

八街市の事故があった後、教育委員会では改めて通学路の危険個所の総点検を実施しているが、今後も子どもたちの安全を最優先に考えながら道路行政に取り組んでまいりたい。

政策課長

通学路の安全を確保することは当然なので、危険箇所をお知らせいただければ組織として対応していきたい。

学校教育課長

教育委員会では、各学校から通学路等の危険箇所を報告してもらい、取りまとめたものを各担当課にお渡しして適宜、対応いただいている。

また先程、市長から話があったように今年度、通学路の危険個所の総点検も実施し、国道や県道の安全確保についても国や県に報告しながら適切な対応をお願いしているところである。

引き続き市長部局と連携しながら安全対策を継続して取り組んでまいりたい。

会田職務代理者

新しく道路を作ったり拡幅したりすることは難しいと思うが、例えば横断歩道のラインを塗り直すことはできるかと思う。横断歩道に横断待ちの人がいても8～9割の車が止まらない現状があるので、せめて通学路上の横断歩道だけでも塗り直して、ドライバーが遠くからでも視認できるよう対応していただきたい。

市長

テレビで見た話だが、欧米では交通マナーが発達しており、横断歩道に歩行者がいると8～9割の車が停車する。また、横断し終えた子どもが、運転手にお礼をし、運転手もそれに応えるという光景が放映されていた。

そういう点では、日本はまだまだ遅れていると感じるので、幸手市でも子どもたちが安心して横断できるような取組をしながら、子どもたちも運転手にお礼ができるような礼儀を身に付けられると良いと思った。

岩崎委員

昨年の総合教育会議でも話したが、市内には、様々な知識や能力をもった高齢者の方々が多数いると思うので、こういった方々が活躍して子どもたちに還元できる場所があると良いと常々思っている。

また、行政の力だけでは難しい面もあるかと思うので、NPO法人などの力をお借りしながら、例えば吉田幼稚園の跡地を利用するなど、子どもたちが学校と家庭以外でも安心して過ごせる場所があると良いと思う。

政策課長

「第2期幸手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの基本目標のうち、「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」という目標があり、その施策の一つとして「生涯を通じた健康と生きがいのづくりの支援」という項目がある。

岩崎委員から御提案いただいた件については、この施策を推進していくことで対応してまいりたい。

会田職務代理者

毎年お願いしているが、学校ではここ数年で、コロナ禍におけるオンライン授業の実施やGIGAスクール構想に係るICTの活用など、様々な業務が増えており、現場の教員もそうだが、特に教育委員会職員の負担が激増していると思う。

予算的な問題もあるかと思うが、新たな課題に対応できる人員配置を是非、検討いただきたい。

政策課長

組織定数等の編成は、政策課が所管している。編成に当たっては、例えば超過勤務時間数や年休の取得率など様々な要因を踏まえて決定している。

来年度の編成の最終的な結論はまだ出ていないが、いただいた御意見も参考にしながら決定してまいりたい。

藤沼委員

市では様々な事業計画等があるが、スピードとコスト、市民の満足度の3点を常に意識しながら、PDCAのサイクルを回していただきたい。

民間は、変化についていけなければ競争に負けてしまう、売り上げが落ちる、給料が減額されるのは当たり前である。行政も様々な変化に対応しながらスピード感をもって各施策を実行していただけるとありがたい。

教育部長

これまでの御意見等を踏まえて、教育長から御意見をいただきたい。

教育長

特別な支援が必要な子どもたちを含め、全ての子どもたちを保護者が安心して学校に任せられる環境づくりが大事だと改めて認識した。

少子化に伴う学校の適正配置と未来を見据えた学校の在り方については、教育委員会定例会でも委員の皆様から御意見をいただいているが、街づくりに資する教育が担う役割の大きさについても改めて御意見をいただいたところである。他の自治体には無い独自のカラーを出して、子育てするなら、あるいは教育するなら幸手市と言われるような事業を、街づくりと併せて取り組む必要があると感じた。

最後に、予測困難な時代を生き抜く子どもたちに必要な資質能力をどう育むかが、これからの学校教育では特に大きな課題だと思うので、市長が市議会でもお話しされている、豊かでたくましく、しなやかな力をもって生きていく子どもたちの育成に、市長部局と連携しながら取り組んでまいりたい。

教育部長

<p>報告事項第 1 号 令和 4 年度の成人式の 名称について</p>	<p>最後に市長から本日の総合教育会議の総括をお願いする。</p> <p>市長</p> <p>総括については教育長から述べていただいたと思うので、私は普段思っていることをいくつか述べたい。</p> <p>一つ目は、令和 3 年 10 月 1 日現在の令和 4 年 3 月中学校等卒業予定者の進路希望状況調査結果のうち、幸手桜高等学校の倍率が 0.34、栗橋北彩高等学校の倍率が 0.63 だった。</p> <p>二つ目は、10 月 14 日に県内 40 市の市長会が開催され、その研修会で渋沢栄一氏の 5 代目子孫である渋澤健氏の講演を聴く機会があった。その中で渋沢栄一氏著書の「論語と算盤」について話があったが、「論語」とは道徳、「算盤」とは利益を追求する経済活動のことを指し、表裏一体であることを述べられていた。</p> <p>また、民間でも行政でも同じだが、前例が無いからできない、また責任を押し付け合う組織は、必ず衰退するとの話も述べられていた。</p> <p>三つ目は、高島委員からもお話をいただいたが、奈良県の荒井正吾知事からいただいた教育論について書かれた本にも、学びの楽しさを教えることが教育だということが書かれていた。</p> <p>四つ目は、倍率 31 倍の都立立川国際中等教育学校附属小学校では、教育理念に「時代を担う児童・生徒一人一人の資質や能力を最大限に伸ばさせるとともに、豊かな国際感覚を養い、世界で活躍し貢献できる人間を育成する。」と掲げている。</p> <p>最後の五つ目は、先日、日本の国防について講義を受けた際、それぞれの国によって世界地図の見方が異なることを知った。教育についてもそうだが、物事を多面的に捉える必要があると感じた。</p> <p>非常に雑な話となったが、耳に留めておいていただければありがたい。</p> <p>社会教育課長 資料により説明する。</p>
---	---

<p>日程第2 その他</p> <p>閉 会 午前10時15分</p>	<p>なし</p> <p>教育部長 閉会を宣す。</p>
---	----------------------------------

他特に重要 と認める事項	なし
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和3年12月14日</p> <p>教育委員 岩崎 万紀子</p> <p>教育委員 高島 勝也</p>